

# 平成 28 年度群馬県中学・高校サッカーメディカルサポート活動報告

## 1. 活動内容

### 1) メディカルサポート

以下の大会においてメディカルサポートを実施した。

前橋市中体連サッカー大会（3 大会全 61 試合）

群馬県中体連サッカー大会（3 大会全 69 試合）

群馬県高体連サッカー大会（4 大会 1~3 回戦までの全 186 試合）

全国クラブチームサッカー選手権大会の本部でのメディカルサポート

なお、平成 28 年度の全試合数と対応件数及びスタッフ数は表 1 に記載した。

表 1. 平成 28 年度全試合数、対応件数、スタッフ数まとめ

28年度	中学		高校	計
	市大会	県大会		
試合数	61	69	186	316
対応件数	237	172	345	754
スタッフ数	48	47	82	177

### 2) スタッフ配置

サッカーメディカルサポートでは原則 1 会場 2 名のメインスタッフ配置を行うことを目標に運営を進めてきた。1 会場 2 名を配置することができた割合は、中学大会にて必要人数 102 人中 95 人で 93%、高校大会にて必要人数 158 人中 82 人で 57%であった。中学大会においては、2 人配置を実現することができたが、高校大会では 1 会場 1 名の割合が高い結果となった。今年度は昨年度と同様、1 会場 1 名の場合にはアシスタントスタッフを配置する運営を行い、スタッフ 1 人での対応は避けるようにした。来年度も同様の運営方針で進めていく予定である。

### 3) 勉強会

本年度は勉強会を実施しなかった。

## 2. 前橋市中学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

### 1) メディカルサポートの概要（表 2）

参加大会は以下の 3 大会、全 61 試合であった。

前橋市中学校春季大会（以下、春季大会）：6 日間 20 試合

前橋市中学校総合体育大会（以下、夏季大会）：5 日間 20 試合

前橋市中学校新人大会（以下、新人大会）：5 日間 21 試合

参加スタッフ数は延べ 48 名、対応数は延べ 63 校、106 選手、237 件であった。

表 2. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ人数	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
春季大会（4/23～5/1）	20	14	27	37	85
夏季大会（7/16～7/23）	20	18	17	33	57
新人大会（9/10～9/24）	21	16	19	36	95
計	61	48	63	106	237

## 2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数 114 件中、大腿四頭筋 18 件(16%)と最も多く、次いで足関節が 13 件(11%)、下腿が 12 件(11%)であった(表 3)。

傷害内容として、傷害総数 114 件中、打撲が 39 件(34%)と最も多く、次いで骨折が 18 件(16%)であった(表 4)。

表 3. 傷害部位別対応件数(件)

	外傷	Overuse	その他	合計
頭部	3	0	0	3
顔面	2	0	1	3
頸部	2	0	0	2
胸腹部	1	0	0	1
腰部	3	1	1	5
肩関節	1	0	0	1
肘関節	2	0	0	2
前腕	3	0	0	3
手関節	8	0	0	8
手部	1	0	0	1
手指	2	0	0	2
股関節	2	3	1	6
大腿部	4	1	1	6
内転筋群	1	0	0	1
大腿四頭筋	14	4	0	18
ハムストリングス	1	6	0	7
膝関節	1	6	1	8
下腿	7	2	3	12
足関節	11	0	2	13
足部	1	2	0	3
足趾	9	0	0	9
合計	79	25	10	114

表 4. 傷害内容別対応件数(件)

	春季	夏季	新人	合計
脳振盪	1	0	1	2
打撲	14	10	15	39
出血	1	0	2	3
骨折	1	7	10	18
肉離れ	2	6	2	10
半月板損傷	2	0	0	2
足関節捻挫	4	4	3	11
突き指	1	1	0	2
筋痙攣	0	1	1	2
腰痛	2	1	0	3
膝蓋周囲障害	1	0	4	5
その他	10	3	4	17
合計	39	33	42	114

### 3) 受傷機転

傷害総数 114 件中、外傷による受傷は 79 件（69%）と、外傷による受傷が多かった（表 5）。

また傷害部位別でみると、大腿四頭筋、足関節では外傷による受傷が多かった。また、ハムストリングスや膝関節では Overuse による受傷が多かった（表 6）。

表 5. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
春季大会	25	12	2	39
夏季大会	23	4	6	33
新人大会	31	9	2	42
計	79	25	10	114

表 6. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	合計
頭部	3	0	0	3
顔面	2	0	1	3
頸部	2	0	0	2
胸腹部	1	0	0	1
腰部	3	1	1	5
肩関節	1	0	0	1
肘関節	2	0	0	2
前腕	3	0	0	3
手関節	8	0	0	8
手部	1	0	0	1
手指	2	0	0	2
股関節	2	3	1	6
大腿部	4	1	1	6
内転筋群	1	0	0	1
大腿四頭筋	14	4	0	18
ハムストリングス	1	6	0	7
膝関節	1	6	1	8
下腿	7	2	3	12
足関節	11	0	2	13
足部	1	2	0	3
足趾	9	0	0	9
合計	79	25	10	114

### 4) サポート内容

対応時期として、対応総数 237 件中、試合後が 111 件（47%）と最も多く、次いで試合前が 71 件（30%）であった（表 7）。

対応内容として、対応総数 237 件中、テーピング実施が 75 件（32%）と最も多く、次いで傷害確認・指導が 39 件（16%）、アイシング実施及び指導がそれぞれ 38 件（16%）であった（表 8）。

対応時期別の対応内容としては、試合前はテーピング実施が最も多く、試合後はアイシング指導及び、傷害確認・指導が多かった（表 8）。

表 7. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	20	18	33	71
試合中	19	7	20	46
ハーフタイム	5	3	1	9
試合後	41	29	41	111
計	85	57	95	237

表 8. 対応内容・時期別対応件数 (件)

	試合前	試合中	ハーフタイム	試合後	計
テーピング実施	53	10	5	7	75
テーピング指導	0	0	0	1	1
アイシング実施	1	12	1	24	38
アイシング指導	0	5	0	33	38
ストレッチング実施	2	4	1	1	8
ストレッチング指導	3	4	2	15	24
止血処置	1	1	0	0	2
徒手的治疗	5	0	0	1	6
傷害確認・指導	5	6	0	28	39
救急搬送	1	2	0	1	4
その他	0	2	0	0	2
合計	71	46	9	111	237

## 5) テーピング実施部位および目的

3大会におけるテーピングの実施は、75件であった。その目的として、症状緩和が42件(56%)と大半を占め、次いで応急処置が17件(23%)であった(表9)。

テーピング部位としては、大腿四頭筋が15件(20%)と最も多く、次いで足関節が11件(15%)であった(表10)。

表 9. テーピング目的別対応件数 (件)

テーピング目的	春季	夏季	新人	計
予防	5	2	1	8
症状緩和	9	19	14	42
応急処置	5	7	5	17
修正・追加	1	4	1	6
その他	1	1	0	2
合計	21	33	21	75

表 10. テーピング部位別対応件数 (件)

	春季	夏季	新人	合計
頰部	0	1	0	1
腰部	2	0	1	3
肘関節	0	1	0	1
手関節	4	0	1	5
手部	0	0	1	1
手指	0	2	1	3
大腿部	0	0	1	1
内転筋群	2	0	0	2
大腿四頭筋	4	7	4	15
ハムストリングス	1	2	4	7
膝関節	2	0	3	5
下腿	0	2	6	8
足関節	4	3	4	11
足部	0	1	1	2
足趾	2	2	6	0
合計	21	21	33	75

## 6) まとめ

傷害部位に関しては、昨年度と同様に下肢に多く、特に大腿四頭筋、足関節が多かった。傷害内容は打撲、骨折といった外傷が多く、今年度は昨年度無かった脳震盪に対する対応も数件生じた。受傷機転に関しては、外傷による受傷は 79 件と昨年度と同様に傷害総数の半数以上（69%）を占めた。Overuse に関しても、25 件（22%）と昨年度とほぼ同様の傷害数となった。

対応内容はテーピング実施が最も多く、試合前の症状緩和目的での対応が多かったが、今年度は試合中の対応が 46 件と昨年度に比べ約 2 倍に増加した（昨年度：24 件）。試合中の対応が必要となる場合、試合への復帰の可能性も加味し、より迅速な評価や処置が求められるため、我々メディカルスタッフは種々の評価法や処置に関する知識や技術の習得に努め、冷静に対応を行う必要である。また、脳震盪が発生したことも今年度の特徴の一つであるが、脳震盪は受傷時のみでなく、受傷から時間が経過してから症状が生じる可能性のある障害であり、重症例では生命にも関わる。そのため、現場での適切な評価に加え、その後の注意事項に関して監督や保護者に正しく伝達が行えるように、メディカルスタッフ全体で脳震盪に対する評価や対応に関して確認を行うことが必要であると考えられる。

## 3. 群馬県中学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

### 1) メディカルサポートの概要（表 11）

参加大会は以下の 3 大会、全 69 試合であった。

群馬県中学校春季大会（以下、春季大会）：3 日間 23 試合

群馬県中学校総合体育大会（以下、夏季大会）：4 日間 23 試合

群馬県中学校新人大会（以下、新人大会）：4 日間 23 試合

参加スタッフ数は延べ 47 名、対応数は延べ 51 校、95 選手、172 件であった。

表 11. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ人数	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
春季大会 (6/5~6/12)	23	12	13	25	47
夏季大会 (7/29~8/1)	23	22	12	18	30
新人大会 (10/15~10/23)	23	13	26	52	95
計	69	47	51	95	172

2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数 95 件中、下腿が 16 件（17%）と最も多く、次いで膝関節が 13 件（14%）であった（表 12）。

傷害内容として、傷害総数 95 件中、打撲が 32 件（34%）と最も多く、次いで足関節捻挫が 10 件（11%）であった（表 13）。

表 12. 傷害部位別対応件数（件）

傷害部位	春季	夏季	新人	計
頭部	0	1	1	2
顔面	1	1	1	3
頸部	2	0	0	2
胸腹部	0	0	1	1
腰部	0	2	0	2
肩関節	1	0	2	3
肘関節	0	0	1	1
前腕	2	0	0	2
手関節	0	0	6	6
手部	0	0	1	1
手指	0	4	4	8
股関節	0	0	4	4
大腿部	1	1	2	4
内転筋群	1	0	2	3
大腿四頭筋	1	2	2	5
ハムストリングス	1	2	1	4
膝関節	5	1	7	13
下腿	6	1	9	16
足関節	3	3	4	10
足部	1	0	3	4
その他	0	0	1	1
計	25	18	52	95

表 13. 傷害内容別対応件数 (件)

傷害内容	春季	夏季	新人	計
脳振盪	0	1	0	1
打撲	6	5	21	32
出血	3	0	1	4
骨折	0	4	5	9
肉離れ	1	2	2	5
半月板損傷	1	0	0	1
膝関節靭帯損傷	0	1	1	2
足関節捻挫	3	3	4	10
突き指	0	0	2	2
筋痙攣	5	0	2	7
腰痛	2	2	0	4
膝蓋周囲障害	3	0	3	6
その他	1	0	11	12
計	25	18	52	95

### 3) 受傷機転

傷害総数 95 件中、外傷による受傷は 65 件 (68%)、overuse による受傷は 15 件 (16%) と、外傷による受傷が多かった (表 14)。

また、傷害部位別でみると、すべての部位において外傷での受傷が多かった (表 15)。

表 14. 受傷機転別対応件数 (件)

	外傷	overuse	その他	計
春季大会	12	6	7	25
夏季大会	14	1	3	18
新人大会	39	8	5	52
計	65	15	15	95

表 15. 受傷機転による傷害部位別対応件数 (件)

傷害部位	受傷機転			合計
	外傷	overuse	不明	
頭部	2	0	0	2
顔面	3	0	0	3
胸腹部	1	0	0	1
腰部	1	1	2	4
肩関節	3	0	0	3
肘関節	1	0	0	1
前腕	2	0	0	2
手関節	5	0	1	6
手部	5	0	0	5
手指	4	0	0	4
股関節	2	2	0	4
大腿部	3	1	0	4
内転筋群	2	1	0	3
大腿四頭筋	5	0	0	5
ハムストリングス	1	0	3	4
膝関節	6	3	4	13
下腿	8	7	1	16
足関節	8	0	2	10
足部	2	0	1	3
足趾	0	0	1	1
その他	1	0	0	1
合計	65	15	15	95

4) サポート内容

対応時期として、対応総数 172 件中、試合後が 85 件 (49%) と最も多く、次いで試合前が 50 件 (29%) であった (表 16)。

対応内容として、テーピング実施が 47 件 (27%) と最も多く、次いで傷害確認・指導が 29 件 (19%)、アイシング指導が 28 件 (16%) であった (表 17)。

対応時期別の対応内容としては、試合前ではテーピング実施が 33 件 (19%) と大多数を占めた。試合後ではアイシング指導、傷害確認・指導が多かった (表 18)。

表 16. 対応時期別対応件数 (件)

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	14	12	24	50
試合中	7	5	15	27
ハーフタイム	5	3	2	10
試合後	21	10	54	85
計	47	30	95	172

表 17. 対応内容別対応件数 (件)

対応内容	春季	夏季	新人	計
テーピング実施	8	14	25	47
テーピング指導	0	1	1	2
アイシング実施	4	6	14	24
アイシング指導	9	3	16	28
ストレッチング実施	7	1	7	15
ストレッチング指導	9	0	6	15
止血処置	4	0	1	5
徒手的治疗	1	0	6	7
傷害確認・指導	5	5	19	29
計	47	30	95	172

表 18. 対応時期別対応内容の内訳

対応内容	試合前	試合中	ハーフタイム	試合後	計
テーピング実施	33	5	5	4	47
テーピング指導	1	0	1	0	2
アイシング実施	0	8	2	14	24
アイシング指導	2	0	1	25	28
ストレッチング実施	5	7	0	2	14
ストレッチング指導	2	0	0	14	16
止血処置	1	2	0	2	5
徒手的治疗	3	1	1	2	7
傷害確認・指導	3	4	0	22	29
計	50	27	10	85	172

## 5) テーピング実施部位および目的

3 大会におけるテーピング実施は 47 件であった。その目的としては、症状緩和が 30 件 (64%) と最も多く、次いで予防、応急処置が各 7 件 (15%) であった (表 19)。

テーピング部位としては、膝関節が 10 件 (21%) と最も多く、次いで手指が 7 件 (15%) であった (表 20)。

表 19. テーピング目的別対応件数

テーピング目的	春季	夏季	新人	計
予防	1	3	3	7
症状緩和	5	10	15	30
応急処置	1	0	6	7
修正・追加	1	1	1	3
計	8	14	25	47

表 20. テーピング部位別対応件数

実施部位	春季	夏季	新人	計
腰部	0	1	0	1
肩関節	1	0	0	1
手関節	0	0	5	5
手指	0	3	4	7
股関節	0	0	3	3
大腿部	2	2	2	6
内転筋群	0	0	1	1
大腿四頭筋	1	2	1	4
ハムストリングス	0	2	0	2
膝関節	4	1	5	10
下腿	0	0	2	2
足関節	0	3	2	5
計	8	14	25	47

#### 6) まとめ

傷害部位および傷害内容について、傷害部位では下腿、膝関節が多く、傷害内容では打撲といった外傷に起因すると考えられる傷害が多かった。受傷機転は、外傷が 65 件と傷害総数の大半 (68%) を占め、いずれも例年同様の結果となった。また、今年度の特徴として外傷による手関節・手部・手指の傷害が多くみられた。これは、接触による転倒時の手のつき方や受け身の取り方が適切に行われていないことが原因として考えられる。

対応内容は昨年度と同様テーピング実施が最も多く、試合前の症状緩和目的での対応が多かったが、対応時期全体でみると試合後の割合が多くを占めていた。試合後の対応内容はアイシングやストレッチング、傷害確認・指導が多く、アフターケアにより二次障害を予防する意識が各チームおよびメディカルスタッフの間で高まっていることが要因の 1 つとして考えられる。また、アイシングとストレッチングでは実施よりも指導が多く、外傷直後の二次障害の予防のため、選手・指導者に対して口頭での説明機会が増えている。メディカルスタッフはサポートの更なる充実化に向けて、応急処置や運動指導に関する知識の習得に加え、選手・指導者への簡潔で明確なフィードバックを心がけていく必要があると考える。

### 4. 群馬県高等学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

#### 1) メディカルサポートの概要 (表 21)

参加大会は以下の 4 大会、1~3 回戦までの全 186 試合であった。

群馬県高校総合体育大会 (以下、県総体)

全国高校総合体育大会群馬県予選 (以下、インハイ)

群馬県高校サッカー選手権大会 (以下、選手権)

群馬県高校サッカー新人大会 (以下、新人戦)

参加スタッフ数は延べ 82 名、対応数は延べ 117 校、207 選手、345 件であった。

表 21. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ数	対応数 (延べ)		
			学校数	選手数	件数
県総体 (4/29,5/1,3)	45	19	33	56	101
インハイ (5/29,6/4,5)	48	18	31	67	110
選手権 (8/27,9/3,10)	44	22	27	39	72
新人戦 (1/14,15,21)	49	23	26	45	62
計	186	82	117	207	345

## 2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数 212 件中、足関節が 70 件 (33%) と最も多く、次いで下腿が 28 件 (13%)、膝関節 25 件 (12%) であった (表 22)。

傷害内容として、傷害総数 212 件中、足関節捻挫が 61 件 (29%) と最も多く、次いで打撲が 37 件 (17%)、筋攣縮が 19 件 (9%) であった (表 23)。

表 22. 傷害部位別対応件数 (件)

傷害部位	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
頭部	1	2	1	1	5
顔面	4	2	0	0	6
頸部	0	1	1	0	2
腰部	1	3	2	5	11
肩関節	1	1	2	1	5
肘関節	1	0	0	2	3
前腕	0	0	1	0	1
手関節	1	2	1	1	5
手部	1	0	0	0	1
手指	2	1	0	3	6
大腿部	3	4	1	1	9
内転筋群	0	2	1	1	4
大腿四頭筋	3	4	3	2	12
ハムストリングス	1	4	4	0	9
膝関節	6	4	8	7	25
下腿	10	13	3	2	28
足関節	21	20	11	18	70
足部	0	2	0	0	2
足趾	0	4	0	1	5
その他	1	1	0	1	3
計	57	70	39	46	212

表 23. 傷害内容別対応件数 (件)

傷害内容	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
脳振盪	0	1	0	1	2
打撲	15	12	3	7	37
出血	4	3	0	0	7
骨折	2	0	1	2	5
脱臼	2	1	0	0	3
肉離れ	2	8	6	2	18
半月板損傷	0	2	3	2	7
膝関節靭帯損傷	0	1	4	1	6
足関節捻挫	16	17	11	17	61
突き指	1	1	0	3	5
筋攣縮	4	12	3	0	19
腰痛	0	2	2	3	7
膝蓋周囲障害	2	1	1	1	5
アキレス腱障害	1	0	0	1	2
その他	8	9	5	6	28
計	57	70	39	46	212

### 3) 受傷機転

傷害総数 212 件中、外傷による受傷は 131 件 (62%)、Overuse による受傷は 45 件 (21%)、不明が 36 件 (17%) で外傷が最も多かった (表 24)。

また、傷害部位別でみると、全体的に外傷が多かったが、下腿やハムストリングス、膝関節には Overuse が多い結果となった (表 25)。

表 24. 受傷機転別対応件数 (件)

	外傷	Overuse	不明	計
県総体	38	9	10	57
インハイ	38	23	9	70
選手権	18	8	13	39
新人戦	37	5	4	46
計	131	45	36	212

表 25. 受傷機転による傷害部位別対応件数

傷害部位	外傷	overuse	その他	計
頭部	4	0	1	5
顔面	5	0	1	6
頸部	2	0	0	2
腰部	6	4	1	11
肩関節	5	0	0	5
肘関節	3	0	0	3
前腕	1	0	0	1
手関節	5	0	0	5
手部	0	0	1	1
手指	5	0	1	6
大腿部	5	3	1	9
内転筋群	1	2	1	4
大腿四頭筋	7	0	5	12
ハムストリングス	0	7	2	9
膝関節	10	7	8	25
下腿	7	18	3	28
足関節	58	3	9	70
足部	1	1	0	2
足趾	4	0	1	5
その他	2	0	1	3
計	131	45	36	212

#### 4) サポート内容

対応時期として、対応総数 345 件中、試合前が 150 件(43%)と最も多く、次いで試合後が 121 件(35%)、試合中が 66 件(19%)であった。ハーフタイムでの対応は 8 件(2%)と少数であった(表 26)。

対応内容として、対応総数 345 件中、テーピング実施が 152 件(44%)と最も多く、次いでアイシング実施が 52 件(15%)であった(表 27)。

対応時期別の対応内容としては、テーピング実施が試合前で最も多く、アイシング実施・指導、傷害確認・指導は試合後で多かった(表 28)。

表 26. 対応時期別対応件数(件)

	対応時期				合計
	試合前	試合中	ハーフ タイム	試合後	
県総体	46	20	5	30	101
インハイ	47	24	0	39	110
選手権	26	16	1	29	72
新人戦	31	6	2	23	62
合計	150	66	8	121	345

表 27. 対応内容別対応件数(件)

対応内容	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
テーピング実施	47	46	25	34	152
アイシング実施	23	9	14	6	52
アイシング指導	5	11	11	8	35
ストレッチング実施	4	9	5	1	19
ストレッチング指導	6	9	4	2	21
止血処置	3	3	0	1	7
徒手的治疗	1	1	2	0	4
傷害確認・指導	10	18	10	9	47
救急搬送	1	0	0	1	2
その他	1	4	1	0	6
計	101	110	72	62	345

表 28. 対応時期別対応件数(件)

対応内容	試合前	試合中	ハーフ タイム	試合後	計
テーピング実施	127	12	1	12	152
アイシング実施	1	24	4	23	52
アイシング指導	0	3	0	32	35
ストレッチング実施	8	4	0	7	19
ストレッチング指導	4	3	0	14	21
止血処置	0	5	1	1	7
徒手的治疗	4	0	0	0	4
傷害確認・指導	4	10	2	31	47
救急搬送	0	2	0	0	2
その他	2	3	0	1	6
計	150	66	8	121	345

## 5) テーピング実施部位および目的

4大会におけるテーピング対応は、151件であった。その目的としては、症状緩和が106件（70%）と最も多く、次いで予防が27件（18%）であった（表29）。

テーピング部位としては、足関節が66件（44%）と最も多く、次いで膝関節が20件（13%）であった（表30）。

表29. テーピング目的別対応件数（件）

テーピング目的	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
予防	13	11	2	1	27
症状緩和	26	31	21	28	106
応急処置	7	2	2	4	15
修正・追加	1	0	0	0	1
その他	0	2	0	0	2
計	47	46	25	33	151

表30. テーピング部位別対応件数（件）

対応部位	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
頭部	1	0	0	0	1
顔面	1	0	0	0	1
腰部	0	1	2	1	4
肩関節	1	0	0	0	1
肘関節	0	0	0	2	2
手関節	1	1	1	1	4
手部	1	0	0	0	1
手指	2	2	0	2	6
大腿部	0	2	0	1	3
内転筋群	0	1	0	1	2
大腿四頭筋	3	4	1	2	10
ハムストリングス	1	4	3	0	8
膝関節	5	3	7	5	20
下腿	7	8	0	3	18
足関節	24	17	11	14	66
足部	0	1	0	0	1
足趾	0	2	0	1	3
計	47	46	25	33	151

## 6) まとめ

本年度は昨年度と同様、1～3回戦において対応を実施した。

傷害部位および傷害内容について、傷害部位では足関節、下腿、膝関節が多く、傷害内容では足関節捻挫、打撲、筋攣縮が多かった。これは昨年度の結果と類似した結果であり、サッカー競技において生じやすい傷害内容と同様の結果となった。メディカルサポート内容について、対応時期は試合前の対応が多く、テーピング実施が多かった。テーピング実施の目的は症状緩和が多く、部位は足関節が多かった。これを傷害部位および傷害内容の結果と共に考察すると、試合以前に足関節捻挫を受傷し、出場する選手が多く、その症状を緩和する目的での対応が多かったと考えられる。今後は、試合前対応の質の向上のため、疼痛の評価と足関節のテーピングを素早く的確に行えるよう、スタッフ教育が必要と考えられる。また、各校に対しテーピングを持参していただけるよう提言していく必要があると考える。